

川村学園女子大学 カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

川村学園女子大学では、建学の精神に基づき、自覚ある女性として社会に奉仕できる教養人を養成するため、文学部、教育学部、生活創造学部を置く。各学部は以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

1. 広範で多様な教養教育、幅広い職業人養成を目的としてすべての学生が履修する全学共通カリキュラムを導入し、さらに高度の学問研究の場を提供するため、各学部は学年進行に合わせて、専門科目を体系的に配置する。
2. 各学科は専門分野の知識および方法論を習得し得るよう、初年次段階から学年進行に合わせて、専門科目を体系的に配置する。大学における学修の集大成として、卒業論文・卒業研究を全学必修とし、指導教授制のもとに丁寧な個別指導を行う。
3. 全学共通カリキュラムでは、初年次教育として、自立的な学習スキルの養成を目標とする「基礎ゼミナール」、建学の精神の周知を目指す「総合講座」を配置し、豊かで時代に即した教養の修得をはかるために共通教育科目を多様に設定する。
4. 学部学科の専門分野を超え、幅広く関心ある科目を履修して学際的な視点を養うことを奨励するため、所属学科の主専攻のほかに「副専攻」の履修プランを用意するとともに、「クロスオーバー学習制度」を導入する。
5. 学生各自の個性に基づいて自己を確立し、それをいかに社会に生かすかを考えさせ、職業人としての基礎力を養成するため、初年次からキャリア・プランニング科目を設定する。
6. 初年次の基礎ゼミナールから卒業論文・卒業研究の研究指導に至るまで、少人数教育を徹底し、学生の特質に応じたきめ細かい指導を行う。

国際英語学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 国際的な視点をそなえた語学のエキスパートを養成することを目的として、英語スキルアップ科目と、「文化」、「言語・教育」、「国際関係」に関する科目を配置する。
2. 「English in Action」シリーズおよび英語スキルアップの科目では、習熟度別の少人数制を徹底し、学生の特質に応じたきめ細かい指導を行い、英語運用能力に加えて企画力やプレゼンテーション能力を養成する。
3. 「文化」に関する科目では、さまざまな文化を多角的な視点から研究し、あらゆる分野の職業に役立つ知識を習得させる。「言語・教育」に関する科目では、英語教員や児童英語指導員を目指す学生を支援する。「国際関係」に関する科目では、国際ビジネスや観光業界を目指す学生を支援する。
4. 留学・キャリアのための体制を整備し、希望する学生を支援する。
5. 大学における学修の集大成として卒業研究を課し、指導教授制のもとに学生の個性と独創性を尊重した個別指導を行う。

史学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 歴史学・地理学の知識および方法論を習得し得るよう、初年次段階から学年進行に合わせて専門科目を体系的に配置する。専門科目は歴史学の新しい方法や視点を取り入れ、多くの選択科目を設けて幅広い教養と深い学識が習得できるように配慮する。
2. 初年次・2年次に歴史学・地理学に関する基礎的科目を配置し、2年次以降に日本史・アジア史・西洋史・地理の各専門領域の科目が履修できるようにする。また2年次以降には学年進行に合わせて各種の「演習」（ゼミナール）を配置し、学年ごとに必修または選択必修とする。
3. 歴史学・地理学に必要な外国語に習熟するとともに、異文化を理解するため、2学年にわたって英語ならびに第二外国語の履修を必修とする。
4. 大学における学修の集大成として、最終年次における卒業論文の作成を必修とする。その作成にあたっては指導教授制のもとに丁寧な個別指導を行う。
5. 高等学校・中学校教員や司書・学芸員などの資格取得を希望する学生に対しては、体制を整備し支援する。
6. 史学科が実施する全てのカリキュラムにおいて少人数教育を徹底し、学生の特質に応じたきめ細かい指導を行う。

心理学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 人々の心に科学的にアプローチするための知識および方法論を習得し得るよう、学年進行に合わせて、講義、演習、実験・実習科目を体系的に配置する。
2. 専門科目は「認知・発達・社会・臨床」の各専門領域に関して配置する。
3. 「認知・発達・社会」の各領域における理論、技法を学ぶ講義、実験・実習を配置し、心理学全般の基礎力を養成する。
4. 「臨床」領域は他の3領域の基礎の上に心理臨床場面で求められる観点や技法を学べるよう、学外を含めた実習を行う。
5. 3年次には各自の研究テーマを選び、4年次には大学における学修の集大成として、各自の研究テーマについて実験・調査を行い、データを解析し、考察し、発表するという卒業論文を個別指導のもとに必修とする。

日本文学学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 初年次・2年次においては、大学での学習のための方法論の基本に習熟し、日本文化全般に関する基礎的理解を深める。
2. 年次が進むにつれ、各人の関心に応じて専門科目を多く履修できるようカリキュラムを体系的に編成する。専門科目は「日本語・日本文学系」、および「芸術・芸能・文化財系」に分けられる。
3. 「日本語・日本文学系」には日本語教員養成のための科目など、国際的視野のもとに日本文化を学ぶ科目を多く設置する。
4. 「芸術・芸能・文化財系」また本学科では特に日本文化を体得できるよう茶道・舞踊など実技科目を設ける。
5. 3年次には「専門演習」、4年次には「卒業研究演習」でより専門的な研鑽を積み、各人が選ぶ研究テーマで卒業論文を作成することとし、それまで以上に徹底した学生の個別指導を実施する。

幼児教育学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 子どもと共に生きることができる自覚ある保育者、全てのくひと・もの・こと>に感謝できる保育者、自らの保育を常に振り返り成長し続け、社会に貢献することのできる保育者の養成を目指す。
2. 幼保連動カリキュラムで1年次より保育者として必要な基礎知識と技術を、体験を通して身につけられるようにする。乳幼児の心身の発達や保育の方法、音楽、図画工作、体育等様々な角度から保育を学べる科目を配置する。
3. 知識の活用能力、論理的思考力、課題探究力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力など、社会生活において必須となる一般的な能力を育成するために、研究やディスカッションを実践的に積み上げる参加型の少人数授業（ゼミナール）を実施する。
4. 専門性の幅を広げるために、保育者に必要とされる多様な技能、技術を身につけ、実践できるよう幅広い演習科目を配置し、現場実習でその学習成果を総合的に活用できるようにていねいな指導を実践する。
5. 幼児教育に関する課題だけではなく、広い視野を持って様々な課題を自ら設定し、必要な情報収集・選択と活用を通じて自らの疑問や課題を探求し、解決するための能力を養うために卒業研究を設定する。

児童教育学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 学生のニーズに応じた履修を可能にするために、カリキュラムを「教育の探求」「子どもの心と身体」「芸術と表現」「子どもの環境」の4分野に区分して、系統的に配置する。
2. 小学校教員として要求される深い専門的知識・技能・態度の確実な習得のために、教育学の基礎的理論科目、各教科教育法を中心とした教育の専門科目、教育実習を中心とした実践的・応用的科目を配置する。また、学校等の教育関係施設での体験を通して実践的に学ぶ機会を1年次から4年次まで順次配置する。
3. 少人数制ゼミナールを実施する。1年次ではレポート作成や目的に応じた情報収集の方法、2年次ではプレゼンテーションの方法やグループワークの方法を習得し、3年次では学生の興味に応じたゼミナールに所属し専門性を教育実践に活かせるようにする。
4. 4年間の学修の集大成として、個別指導体制のもとに卒業論文を執筆させ、研究成果を発表させる。

社会教育学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 生涯学習領域における知識および方法論を修得し得るよう、学年進行に合わせて専門科目を体系的に配置し、初年次・2年次においては、基礎を固めるための必修科目を置く。
2. 専門領域として「社会教育」と「学校教育」の2領域を配置する。「社会教育」領域では、社会教育専門職員の養成、「学校教育」領域では、中学校・高等学校の教員等の養成など、専門的に活躍できる人材の養成を目指し、それぞれの資格に必要とされる知識・技能を理論的かつ実践的に学べるようにカリキュラムを編成する。
3. 4年次では、大学における学修の集大成として、卒業研究を必修とし、指導教授制のもとに、ていねいな個別指導を行い、卒業研究発表会を実施する。
4. 公務員資格や教員資格を希望する者に対しては、資格採用試験に必要な基礎的、専門的教養を習得させるための体制を整備して支援する。

生活文化学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 多様な社会環境に適應できる社会力と豊かな感性を有する栄養士・栄養教諭を養成することを目的として、「食物・健康」「生活アート」「社会・生活」の3領域の科目を配置する。
2. 栄養士・栄養教諭としての知識・技術を習得させるため、初年次教育から体系的に栄養士科目を含む「食物・健康」領域の科目を配置する。
3. 感性豊かな栄養士・栄養教諭となるために、「生活アート」「社会・生活」領域の科目を栄養士科目と連動させて配置する。
4. 社会のニーズに応えるべく、即戦力となりうる医療秘書実務士やフードスペシャリストの資格取得を目指す学生のための体制を整備し支援する。
5. 3年次よりゼミナールを開始し、これを卒業研究へと継続させることで専門性をさらに高める。

観光文化学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 1年次において、観光および観光文化に関する基礎的な知識を習得できる科目を置く。
2. 専門教育科目として、「観光文化」、「観光ホスピタリティ産業」、「観光英語」の3つの領域を配置する。
3. 「観光文化」領域では、既存の学問の方法論を用いて観光現象を明らかにする観光理論科目と、観光地理関連科目、世界の地域ごとの観光文化について学ぶ科目を設置する。
4. 「観光ホスピタリティ産業」領域には、ホスピタリティのあり方や各種産業に関する科目を置く。
5. 「観光英語」領域では、英語力の基礎を身につける英語基礎科目群と、様々な観光場面ごとの英語対応を学ぶ観光英語科目群を置き、現場で即戦力となる英語力を養成する。
6. 3年次には必修科目として観光文化専門演習を置き、4年次の必修科目である卒業研究演習および卒業研究と連続して学ぶ事ができるようにする。また、ゼミナール単位で国内および海外研修旅行を行い、現地でフィールドワークを実施する。
7. 講義及び専門演習に関連した視察や見学を実施し、座学で学んだ理論を国内外の現地・現場で確認する機会を設ける。